恩林寺広報

No 114
平成三十一年（二〇一九）新年号
臨済宗建長寺派東光山恩林寺
電話　〇二七六―八八―三五六四
FAX　〇二七六―八八―四一三二
郵便番号　三七〇―〇六〇一

謹賀新年

明けましておめでとうございます。本年も檀信徒各家の平安を、心よりご祈念申し上げます。

恩林寺　閑栖　前田明堂
〃　住職　前田貴洲
〃　責任役員　小林武男
〃　〃　松原荘一
〃　〃　堀越眞澄
〃　檀徒総代　加藤和久
〃　〃　小林誠
〃　〃　茂木勲
〃　〃　鴇田征史
〃　〃　阿部照美
奉讃会役員一同

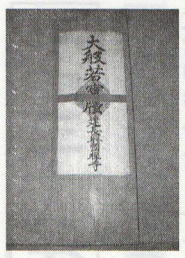
◎大晦日除夜鐘撞き

鐘の音は仏の清らかな声、仏の教え。その鐘の音を聞く事によって、この一年に作った罪を懺悔（ざんげ）し、煩悩を除き、清らかな心になって新しい年をお迎えください。

・大晦日午後十一時半より除夜諷経、第一聲。（参加者全員が撞く事ができます。甘酒、ココア等の接待あり。）

◎新年大般若祈祷会

一月二日午前十一時より、例年の通り厳修致します。新年の天下泰平、万民豊楽、仏法興隆、五穀豊穣等々を願い、ご祈祷致します。尚、当日は恒例による福運だめしのくじ引きを用意してございます。本年の運勢を占い、一年の計をおたてください。



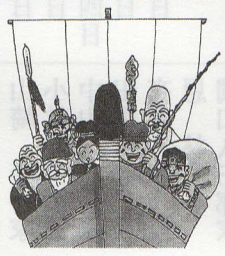
般若札（守護札）は玄関内側の上部に貼り付けておくと良いでしょう。外からの邪鬼の侵入を防いでくれると言われてり居ます。

お正月の巡礼 ―七福神詣―

お正月の祈りの巡礼は何といっても「七福神詣で」です。

七福神の信仰は古くから伝えられています。

インド、中国の神さまが仲良く宝船にお乗りになっておられる姿はまことに縁起のよい光景です。この姿のように日本の景気もよくなってくれればと思います。



伝えられるところによると徳川幕府の相談役であった天海僧正が将軍・家康に国を富ませ繁栄に導くにはどうすれば良いか、と問われたのに対し僧正は『仁王護国経』に説かれている「七難即滅、七福即生」〈七つの苦難は直ちに消え、七つの幸せ、ただちに生まれる〉を示したものです。

さらに将軍は「七福とは何か」と問われたのに対し、天海僧正は「布袋、恵比須、大黒天、弁財天、毘沙門天、寿老人、福禄寿」を示しました。

◇中国のお坊さん　布袋和尚

布袋さまは、いかにも福よかな顔と姿をされ、不平不足なく大満足を表しています。福徳円満の大和尚さまです。

◇日本の神さま　恵比須さま

神代の時代にわけあって海に流されました。しかし、恵比須さまの心が広く情け深かったので漁業の神さま、海の神さまになられたのです。活きのよい鯛をかかえて「人々を幸せにしてやりたい、人々のために尽くしたい」と体全体で示しています。

◇インドの神さま　大黒天

昔、インドの荒れ寺をこつこつと農業に励んで見事に再興した男がこの大黒天さまといわれています。「田を耕す」ことから「田から」となり「タカラ」から「宝」となって、宝をもたらす神さまとなりました。田を耕すには小槌を使っての努力が必要であることを示し、二俵の俵に乗って「欲ばるな」とされているのです。

大黒さまから「お宝」を頂くことだけを望むのではなく、努力の大切さというお宝を示しているのです。

◇インドの梵天の奥さま　弁財天

インドの神話にある梵天の奥さまです。すばらしく美しい声と奏でる琵琶の調べは人々に福徳をもたらしてくださいます。

◇仏教守護の軍神　毘沙門天

甲冑で身を固め、片手に宝塔、片手に鉾または宝棒をもち仏法を守る神さまです。

◇中国の神仙　寿老人

鹿をつれ薬草を探し不老長寿――健康の福徳をさずけてくださる仙人です。

◇中国の神仙　福寿録

長い頭が示すように学問知識の神さまです。私たちも勉強に励み福禄を頂きたいものであります。

お正月は祈りの日々

大晦日に、一年の反省をし、そして元旦を迎え、祈りの生活が初詣から始まります。お年始まわりや、年賀状の挨拶にも祈りの言葉が見られます。

あけまして　おめでとうございます
本年も宜しくお願い致します。
御一家の御多幸をお祈り申し上げます。

お正月はお互いの幸せ、一家の幸福を祈る機会といってもよいでしょう。

一日の計は朝にあり

「一年の計は元旦にあり」と、古くから言われています。お正月での祈りの心をこの一年間持ち続けることが、大切な生活態度であるといえます。

「祈りに始まり　祈りに終わる生活
合掌に始まり　合掌に終わる生活」

この気持ちを持ちつづける生活こそ信仰に生きる人の姿です。

お釈迦さまは「初めも善く、中も善く、終わりも善かれ」と説かれました。

お正月の祈りを忘れることなく「中だるみ」する事なく一年を通して勤めたいものです。

「私は祈っても、祈りがかなわないのですが」と、声をかけてきた人がいます。その時、私は「祈りがかなうまで祈るのです。祈りつづければ、必ずかないます。祈る心を忘れないで下さい」すると「うーん、そうですか、祈りつづける、かなうまで祈ることが大切なんですね。途中であきらめないで、投げ出さないで祈ることですね。わかりました。祈りつづけます」と答えてくれました。

お正月に祈った祈りの心を大切にして、祈る心を忘れないで、祈り始める生活、祈りに終わる生活をして、この一年をよい年になるよう頑張ろうではありませんか。

元気をもらう

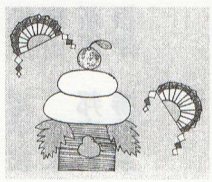
餅は、仏さまや神さまへの大切な「おそなえ」です。神聖な食べ物として、古い時代から大切にされてきました。

お正月に欠かせない鏡餅。そこには、さまざまな願いが、こめられています。丸い形は円満を表し、それを二段に重ねるのは、円満に年を重ねることを意味します。

橙は、木から落ちずに実が大きく育つことから、代々わが家が繁栄することを祈って餅の上に飾ります。最近はミカンを乗せることもありますが、それはあくまで代用です。

正月十五日の鏡開きでは、おそなえした鏡餅をさげて、家族一同でいただきます。鏡開きの鏡には円満、開くには末広がりの意味があり、やはり縁起をかついでいます。

おそなえした餅を口にするのは、神仏の力をわけてもらうためです。正月に限らず、結婚、出産、新築、還暦や古稀など、人生のいろんな節目で、餅はふるまわれてきました。仏さまから元気をたくさんもらう縁起物の食事、それが餅なのです。



●絵で見る禅の修行生活　雲水日記⑲

※雲水（うんすい）修行僧のこと。行雲流水のように淡々として一処に止住せず、正師を求めて遍歴する意よりくる。

飯台看（はんだいかん）

食事当番

飯器（はんき）（おひつ）、菜器（さいき）（漬物などの菜入れ）、湯器（とうき）（茶、湯の器）、折水器（せっすいき）（洗鉢した残水を棄てる器）、生飯器（さばき）（飯台上の生飯を取り集める器）などを前にして、神妙に構えたこの飯台看（はんだいかん）といわれる給仕役。この食事当番は堂内衆の順次交替で行われる。食堂（じきどう）では彼も大衆も看頭（かんとう）という監督の鳴らしものの指揮で動作いっさいを進める。

人命の糧の食事問題は重大事には違いないが、僧堂では特別重要性を持つ。だから、食事作法も実に洗練された典型的なもの。古来の規矩（きく）で厳粛さは今も昔と変わりない。食事のための読経の他はいっさい無言。飯台看（はんだいかん）は相手の合掌や手のサインで加減する。彼の進退はすべて古則に則り、緩急よろしく寸分のスキもない。

極端な粗食は厳しい坐禅とともに僧堂の昔からの看板だ。朝は粥座（しゅくざ）と称する非常に薄い粥。昼は麦七、米三の麦飯の斎座（さいざ）。二食主義の建前から夕食は残飯かその雑炊（ぞうすい）の薬石（やくせき）が定食である。

恩林寺ホームページ

恩林寺に関する情報が満載です。動画や写真をまじえ、過去の行事や出来事、案内事項など常に新しい情報を発信して居ります。是非ご覧になって見てください。

URL　http://www.onrinji.net/